魅力満載　おいでよ!!バルーンミュージアム

連載 第1回

「どこにあるの??」

バルーンミュージアムは、JR佐賀駅から県庁方面に徒歩17分、佐賀中央郵便局北側の中央大通り沿いにあります。

建物の壁面に描かれたバルーンと、1階エントランスに展示された実物のバルーンが、「バルーンミュージアム」感を演出しています（大きなガラス越しに外からも見えますよ!）。

建物は1、2階にバルーンミュージアムのほか、みやげ店、カフェ、3階には青少年センターがあり、多くの人が訪れるにぎやかな施設です。

ミュージアムエリアのみ有料（要入場券）ですが、建物に入るのは無料。「佐賀のおいしいお菓子を買いに」「友達とランチを食べに」と、気軽にお立ち寄りください。

問い合わせ
佐賀バルーンミュージアム
年内無休・10時～19時
入場料　大人　500円
小中高生　200円
☎40・7114　FAX40・7135

行政相談委員の真島康子さん総務大臣表彰受賞！

○真島委員の喜びの声

「話を聞いてもらえてよかった」、「解決してよかった」との声をいただき、励みになっています。相談者と関係機関の橋渡し役として15年続けてきましたが、受賞できて嬉しかったです。

【行政相談委員とは】
総務大臣から委嘱され、住民から行政に関する相談や要望を受け付け、助言や関係機関への通知を行われています。

▲佐賀市行政相談委員　真島　康子さん
平成13年から佐賀市担当の行政相談委員として尽力されており、今年10月に総務大臣表彰を受賞されました。

問い合わせ
総務省　佐賀行政評価事務所
行政相談課
☎22・2651　FAX22・2652

地域のHERO&HEROINE! 消防団

消防団は地域防災力の要

中部方面隊第3支団　久保泉分団第9部
部長　宮地（みやち）　和政（かずまさ）

平成18年4月に入団しました。団員10人で、月2回の器具点検のほか、巨勢川（1級河川）の水位が上がれば警戒のため出動します。

昨年、牛津川で行われた総合水防演習で行った水防工法「月の輪工（つきのわこう）」が印象に残っています。過去には巨勢川が氾濫したことがあるので、学んだ水防工法を活かしたいと思います。

熊本地震では多くの消防団員が活躍したと聞き、改めて「消防団=地域防災力の要」と再認識しました。消防団は誰でも参加できる活動です。大事な人のため、地域のために一緒に活動しましょう!

問い合わせ　本庁　消防防災課
☎40・7015　FAX24・3187
✉shouboubousai@city.saga.lg.jp

サクラのアメリカよかとこ

スーカ家恒例
兄妹そろってのクリスマス！

サクラ・スーカ
（佐賀市国際交流員）

アメリカでは12月に入ると、街はクリスマスムード一色になります。

お店は赤と緑に染まり、クリスマスセールが盛大に行われ、街なかはイルミネーションで輝きます。

各家庭ではプレゼントやクリスマスツリーを選んだり、家を飾りつけたり。子どもたちはウィッシュリスト（欲しい物リスト）を作ったり、みんながワクワクした気分になっていきます。

アメリカでは、クリスマスは「与える季節」と言われます。プレゼントをもらうことより、「恵まれない人たちに分け与えること」に意味があるとされているため、アメリカ各地には慈善寄付箱が設置されます。

その中でも特に注目されるのが、アメリカ海兵隊が運営する慈善プログラム「トイズ・フォー・トッツ」です。

1947年にロサンゼルスに駐留していた、アメリカ海兵隊予備役のビル・ヘンドリックス少佐の妻が、手作りの人形を寄付したいと思っていました。しかし、受け入れできる団体が見つかりませんでした。

そこでヘンドリックス少佐は、貧困層の多い地域の子どもたちにも「クリスマスの喜びを味わって欲しい」という願いを込めて「トイズ・フォー・トッツ」を設立しました。

その年、5000個のおもちゃが集まり、貧困に苦しむ子どもたちにプレゼントすることができました。毎年10月から12月にかけて新品のおもちゃを集めています。

クリスマスの時期になると、「ブルードレス」と呼ばれる礼服を着た海兵隊員（通称「青い服のサンタクロース」）が、世界中の「うちにはサンタクロースは来ないの?」と思い悩む子どもたちに笑顔や夢、希望を与えています。

今では海兵隊員だけでなく、企業や団体、芸能人も協力し、これまでに5億個以上ものおもちゃがプレゼントされました。

クリスマスは、プレゼントやデコレーション、イルミネーションを楽しむだけでなく、人の温かみを感じ、貧困に苦しむ家庭のクリスマスを明るく照らすことのできる季節だと思いませんか。

がんばっぺ気仙沼通信 ⑦

気仙沼の短い秋が終わり、日が落ちるのが早い今日この頃。こちらでは夕方5時前には、真っ暗になります。気温も10月下旬には10度を切るようになり、厳しい冬が訪れています。

そんな中、気仙沼市で行われるサンマの無料配布のイベントに、ボランティアで参加してきました。

気仙沼港のサンマの水揚げ量は国内第3位。そのため、いろいろなイベントでサンマを炭火焼きし、無料配布が行われます。

今回のボランティアは、ただひたすらサンマを焼き、お客さんに提供するというものでした。簡単なボランティアだと思っていましたが、やけどなどに注意が必要なのと、煙もすごいので、マスクやゴーグルが必須です。

準備万端、いざ炭火焼きへ!

いざやってみると簡単なようで難しく、サンマの皮がすぐに焦げてしまいます。炭の量や火の強さ、裏返すタイミング等いろいろ試しましたが、最後まで「これなら100%きれいに焼ける」という焼き方は解りませんでした。地元の人がおっしゃるには、うまく焼く方法は経験しかないそうです。

このボランティアを通して、また多くの人とつながることができました。また、このような機会があれば積極的に参加したいと思います。

派遣職員のつぶやき

先日、佐賀市の民生委員の皆さんが20人ほど気仙沼市に視察に来られました。私がご案内をしましたが、皆さんとても真剣に話を聞いてくださいました。嬉しいことに、帰佐された後、お礼のお手紙までいただき、熱気球世界選手権に気仙沼ブースを出展した際にも来てくださいました。

佐賀と気仙沼、こんなに離れていても、つながりはできる。縁って不思議なものです。

問い合わせ　宮城県　気仙沼市役所　観光課（井口（いぐち））
☎0226・22・3438　FAX0226・24・5519
✉kanko@kesennuma.miyagi.jp

市立図書館20周年　おめでとう！

市報さがの街角リポーターの皆さんが、
今年８月に20周年を迎えた
佐賀市立図書館を取材しました。

親子に寄り添った図書館に

佐賀に移住して５年、市立図書館には大変お世話になっています。

「手づくり絵本コンクール」参加に始まり、絵本の読み聞かせイベント、調べもの学習企画に、長女が夢中になっている切り紙やあやとりなどの本の貸し出し。

七夕の短冊を書いて飾ったりと、来館するたびに季節を感じる催しもあり、親子で楽しませていただいています。

20周年を迎え、ますます親子にも寄り添った図書館であってほしいと願っています。

西郡　幸子

絵本が大好き！

図書館で絵本が大好きな久保惟真くんと出会いました。赤ちゃんの頃からお母さんと図書館に通い、幼稚園の時は寝るときに本を読んでもらうのが楽しみ。今は大好きなお姉ちゃんと図書館や本屋に行く日をワクワクして待っています。

そんな惟真くんのお気に入りは「〝弁当の日〟がやってきた!!」。表紙には柔らかいタッチでたくさんの弁当箱が並びます。子どもたちが自分でお弁当を作るストーリーで、最初は恥ずかしがったり、作るのが嫌でお母さんに頼んだりする子どもたち。それでも次第に自分の手で少しずつお弁当を作るようになっていきます。

食育や感謝について大人も考えさせられる一冊です。

「ぼくもね、この本を読んでウィンナーと卵焼きを焼けるようになったよ！」と笑顔で教えてくれた惟真くんでした。

高原　陽子

20周年祝うケーキ

図書館１階フロアに入ると、ガラスケースに飾られた大きなケーキが、ひと際目を引きます。

開館20周年を祝う豪華なバースデーケーキです。

西九州大学佐賀調理製菓専門学校の学生たちが製作して、８月の式典で贈呈されました。

縦40㎝×横60㎝×高さ８㎝程の長方形です。マジパンでコーティングされた表面に、チョコレートスポンジで作った「20」の数字。かわいい色のマカロンで周りを囲み、マジパンで作った華やかな花飾りがとてもきれいです。長持ちするように工夫されています。思わず、食べてみたくなる素晴らしいケーキですよ。

中野　美和子

図書館プラスアルファの楽しみ

市立図書館が長く親しまれ続けている理由のひとつに、歩いてすぐの距離に魅力的なお店が点在していることがあるのではないでしょうか？

例えば、リンパサロンや老舗の和菓子屋さんなど。図書館に行ったついでにちょっと寄り道したくなる周辺環境のよさです。

熊本　由美子

市立図書館は市民のオアシス

私は月に２回は市立図書館に出かけます。図書館東側には「ふれあい広場」が広がり、家族連れが気持ちよさそうに散歩する姿が見られます。

ある時、昔自宅で飼っていた柴犬のジョンにそっくりな犬と出会いました。亡くなった妻も、３人の子どもたちも元気はつらつな頃でした。当時を思い出し、涙がにじんできました。

さて、皆さんは毎月第３金曜の14時から無料で映画上映が行われていることをご存知ですか？「金曜シアター」といって、名作映画などが上映されます。

読書と合わせて、映画も楽しんではいかがですか？

片桐　武男

大好きな場所

学生時代から、お世話になっている図書館。その時々のライフスタイルに合わせて、色んな情報を手に入れることができる、大好きな場所です。今は子どもの誕生をきっかけに、幼児食や自然療法の本をいろいろ読んでいます。特に子どもと一緒に読める絵本は身近な存在です。

子どもと行くときは、お弁当を持って、図書館とどんどんどんの森で一日中楽しんでいます。

図書館に併設されているカフェも素敵でオススメですよ。

津村　さやか

赤ちゃんから利用できる「絵本のスペース」

孫が大好きな絵本
「おつきさまこんばんは」

私は、孫を連れて市立図書館内にある「絵本のスペース」を利用しています。

２歳を過ぎた孫ですが、１歳前から図書館に連れて行っているので、今では子どもの絵本コーナーに行こうと、私の手を引っぱります。

自宅に持っている「おつきさまこんばんは」の絵本は、大のお気に入り。図書館に置いてあるのを見つけると大喜びです。

現代っ子にもゲームだけでなく、絵本の読み聞かせを通して人との関わりを感じてほしいと思います。

池田　路子

行くと楽しい図書館

平成８年８月に「市民と共に育つ図書館」を基本理念に開館した佐賀市立図書館。

電子書籍の貸し出し導入など、より身近で利用しやすい図書館を目指しています。

年間を通じてさまざまなイベントを企画。１月には「本・活かす市」・「佐賀大学生アート展」、２月には「図書館たんけん隊★未来図書館ワールドカフェ」、３月には「データーベース講座」など盛りだくさんです。

また、視覚障がい者や高齢者に、その場で朗読する「対面朗読ボランティア」が60人ほど活動されています。中には16年も続けている人もいるそうです。いつでも利用できるように、土日・祝日は図書館に待機されています。

今年度から、電話での朗読サービスが始まりました。例えば、読んで欲しい新聞記事を電話で伝えると、記事を確認したボランティアから折り返し電話があり、朗読するそうです。興味のある人はお問い合わせください。

山田　未敏

企画・編集　本庁　秘書課　広報係
☎40・7021　FAX24・3463　✉hisho@city.saga.lg.jp